



田中鉄工

群馬県

地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業 「ソーシャル X アクセラレーション for GUNMA」 ファイナリストに選出

田中鉄工(株)(佐賀県、末吉文晴社長)は、群馬県が「令和6年度 地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業」として開催された官民共創型アクセラレーションプログラム「ソーシャル X アクセラレーション for GUNMA」のファイナリスト10社に選出された。同社は12月に開催された自治体との実証実験の要件定義を考えるワークショップを皮切りに、約2カ月間のメンタリングを経て、2月12日に群馬県庁で開催された最終審査会でGX推進室 SDGs推進室 Executive 陣内太氏が有識者、市民を前にプレゼンした。

■ロードカル SDGsを通じた群馬のGX実現

陣内太氏がプレゼンしたテーマは、「UCOの利活用による、官民一体プロジェクト ロードカル SDGsを通じた群馬のGX実現」。

田中鉄工は国内13拠点に展開し、今年4月には群馬県高崎市にサービスステーションを開設する予定だ。同社が目指してい

るのは、道路舗装業界のカーボンニュートラル。この社会課題の解決に向けてGXリーグへの提言等、各省庁と連携している。また全国の様々な自治体とも連携しており、群馬では県議会の環境農林常任委員会への取組共有会も実施した。

群馬県ではアスファルト合材製造時に、年間約57万Lの重油が使用され、約2万トンのCO₂が排出されている。いっぽう、カーボンニュートラル・自然共生圏・循環型社会に貢献できるのが廃食用油だ。重油や軽油の代替燃料として利活用することで、CO₂や可燃ごみの削減、大気汚染や水質汚染の軽減にもつながり、環境保全に大きく貢献する。さらに、群馬県で出た廃食用油を地産地消エネルギーとして、群馬県の誰もが利用する道路や歩道に還元できる。

同社の調査によれば、群馬県の家から出る廃食用油は、約97.5%が捨てられている。この「廃棄されている資源のリサイクルが地球を救う」。これが気候変動に対す

る同社の答えだ。

その成功例として、陣内氏は北海道小樽市の「ロードカル SDGs」事業を紹介した。小樽市は回収開始から2年目で、家庭系廃食油の回収量が前年比約4倍になり、アスファルトプラントでは9か月間の廃食油混焼で約326トンのCO₂削減に貢献した。廃食油を燃料として製造された合材の約95%は小樽市と小樽市隣接町の道路に還元され、地産地消の実現にも貢献している。

田中鉄工は群馬県でも、同様のムーブメントを起こしたいと考えている。そのために回収拠点の拡大・リサイクルによる社会貢献量の見える化・テレビCM等のメディア発信・SDGs教育の展開・全油連との連携によるトレーサビリティシステムの展開など持ち得るアセットを紹介。

「ムーブメント実現ためのポイントは、回収インフラの整備と市民の行動変容です。地域の特性に即した形で、われわれのアセットを活用いただきたい。自治体のみならず、みなさまへお願いしたいことは、

1) 小売店・生協等への廃食油回収BOX設置のご要請と市民への周知拡大。2) SDGs教育の実施です」と述べてプレゼンを締めくくった。

田中鉄工はおしくも入賞を逃したが、地元メディアである群馬テレビは廃食用油に注目し、報道番組の構成で田中鉄工を大きく取り上げた。



プレゼンする陣内氏

群馬県「令和6年度 地域と共創する脱炭素イノベーション創出事業」
ソーシャルXアクセラレーション for GUNMA 御中

**群馬県とともに 循環型社会に貢献し
カーボンニュートラルを実現する**

廃食油の利活用を通じた
社会的価値と経済的価値の共創による
事業モデルについて

田中鉄工株式会社
GX推進室 SDGs推進室

中鉄工 株式会社
Yanaka Iron Works Co., Ltd.

* 廃食用油 = UCO : Used Cooking Oil

実証実験に向けて、自治体の皆様をお願いしたいこと

群馬県の家系UCOの、約97.5%は廃棄されている
⇒ 回収インフラの整備 × 市民の行動変容により、リサイクルを推進



ロードカルSDGsにより、群馬県へ提供できる価値(群馬県全体で試算)

経済的価値

①年間約4億円の
下水処理負担コスト削減



②年間約5,530万円の
可燃ごみ焼却コスト削減



ロードカルSDGsにより、群馬県へ提供できる価値(群馬県全体で試算)

社会的価値

①年間4,700トンの
CO₂削減

